

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	東京工業大学	申請大学長名	三島 良直
申請類型	オールラウンド型	プログラム責任者名	丸山 俊夫
整理番号	G01	プログラムコーディネーター名	佐藤 勲
プログラム名	グローバルリーダー教育院		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

広く政財産官学界にわたりグローバル社会を牽引していくトップリーダー（グローバルリーダー）には、国・地域、人種、宗教等の違いを越えてものごとの本質を見抜き、解決すべき課題を抽出し、自らの専門領域の知識・能力だけではなく、他の領域に知見を有する他者の力を幅広く適切に活用して、課題解決のための方策を考案し、それを社会に合理的に説明した上で実行に移すことができる能力が必要である。このような能力を有する人材を養成するため、本事業では、以下の諸点に改革を行う。

- ・ グローバルリーダーに向けた学生のキャリア意識の涵養：将来、自身が、様々な文化・分野が共存するグローバル社会を牽引していくトップリーダーになりたいという意欲を持った者のみを選抜し、実社会の現役リーダーとの接点を豊富に用意してキャリア意識の強化を図ると共に、それぞれの志向に合致した活躍の分野を考えさせ、それに合わせた能力の涵養の機会を提供する。
- ・ グローバルリーダーたる能力の養成のための仕組み：「俯瞰力」「コミュニケーション力」「行動力」「創造性」といったいわゆる「人間力」の養成には、コースワークなどの知識の習得を目的とした従来の大学院教育とは異なる方法と仕組みが必要である。こうした能力を、それぞれの学生が描くキャリアパスに合わせて、テーラーメイドに涵養する仕組みを構築し、グローバルリーダーたる実践的能力を身につけさせる。
- ・ 文理の枠を越えた指導体制の構築と学生の切磋琢磨の環境の強化：グローバルリーダーには、理工学分野のリーダー以上に、文理の枠を越えた幅広い俯瞰力が求められる。こうした能力を養成するため、国内外の実社会のリーダーとの接点を拡充し、実社会の知見を踏まえた俯瞰力を養うと共に、一橋大学との連携によって、指導体制や学生が切磋琢磨する環境の多様性を強化する。
- ・ 専門能力の養成と両立しうる仕組みの構築と学生支援：理工学分野における知識・能力の獲得と人間力の養成という異なる方法による教育体系を両立させるため、修士・博士後期課程を連続した学修期間と位置付け、専門領域における論文研究と人間力涵養の修練とを、学生自身の時間管理の下で自由に組み合わせることができる仕組みを構築する。また、授業料免除、奨励金・研究費給付等によって経済的側面からも支援を行い、本事業での修練に集中させる。

## 2. プログラムの進捗状況

既に本学位プログラムに所属している第1期生ならびに第2期生に対して、専門領域における論文研究と並行して道場教育・オフキャンパス教育を実施した。また、前年度の一橋大学国際企業戦略研究科（ICS）との連携教育体制の構築を踏まえて、本年度は教育体系をさらに深化させるとともに、学生の多様性を増し切磋琢磨する環境を強化して、本学位プログラムの教育効果を高めることを目的として事業を実施した。すなわち、

- ① 本学位プログラムの導入段階の教育科目である「リーダーシップ基礎科目群」を充実させるとともに、必修科目である「人間力基礎」の内容を刷新し、導入教育を実施した。
- ② 募集定員を15名に増員して、第3期生の所属選抜を実施するとともに、一橋大学の学生にも門戸を開放した結果、東工大から12名、一橋大学から4名の学生が新たに本学位プログラムに所属した。また、一橋大学から7名の学生を課程外で道場教育に参加させた。
- ③ 本学位プログラムにおいて養成する俯瞰力の文理融合を強化するため、一橋大学ICSと連携して、一橋大学千代田キャンパスに人文社会系道場を開設し、教育を開始した。
- ④ 道場教育の幅を拡大し、学生間の切磋琢磨の機会を強化するため、道場主を新たに1名雇用して、東工大に科学技術系道場を追加開設し、4道場体制で教育を開始した。
- ⑤ 「人間力基礎」担当教員、道場教育の支援者として、特任教員・教育研究支援員を6名雇用し、導入教育と道場内の学生の切磋琢磨を深化させた。
- ⑥ プログラム担当者と学生の指導教員、本学と一橋大学の教員の連携を密にして教育効果を高めるため、これらの教員団によるFD研修を合宿形式で平成25年12月21～22日に実施した。
- ⑦ 第1期生、第2期生のうち、博士後期課程に進学する学生に対し中間評価を実施し、6名に対して進学許可を与えるとともに、前年度を含め中間評価に合格した学生に対してオフキャンパス導入教育を実施し、うち1名がオフキャンパス教育として海外機関におけるプロジェクトに取り組んだ。
- ⑧ 所属学生に対して、研究支援費・研修支援費・奨励金等の経済的支援を行い、本学位プログラムにおける修練に集中させた。
- ⑨ 増員した定員に合わせて、学生のキャリア意識の涵養、オフキャンパス教育の派遣先とのマッチング等のため、メンターを1名、オフキャンパス教育コーディネーター・キャリアアドバイザーを2名追加雇用した。
- ⑩ 本学位プログラムの教育方針・内容についての意見を聴取するため、アドバイザーリーボード・外部評価委員会を平成25年6月28日に招集した。
- ⑪ 修了生のキャリアパスの確保を確実にするため、東工大基金室を通して、東工大産官学連携人材養成コンソーシアム、蔵前工業会をはじめとする産業界との連携を強めた。
- ⑫ 本事業の運営支援組織を強化するため、事務員等を5名雇用すると共に、グローバルリーダー教育院事務室の整備を行った。
- ⑬ 本学位プログラムの目指すところについての政財産官学界の認識と理解の浸透を図るため、企業法に関するシンポジウムを一橋大学ICSの企画で平成26年1月10～11日に開催する共に、トップリーダー養成に関するシンポジウムを平成26年3月10日に開催した。また、本学位プログラムの広報活動を推進し、広報資料等を充実させた。